

令和7年度第1回学校運営協議会 議事録

日時:令和7年 5 月 30 日(金)

9:15～11:40 学校運営協議会

会場:本校視聴覚室

[出席者名]

浅沼圭美(社会福祉法人新生会新生園施設長)

近藤嘉文(ふれあいランドいわて館長)

熊谷拓也(岩手県立療育センター事務局長)

佐藤 啓(矢巾町立矢巾東小学校校長)

菅原保之(矢巾町役場 福祉課長)

名取泰博(藤沢自治会自治会長)

佐々木四士美(矢巾2区自治会長)

留場弘子(はつらつ狄森会事務局)

工藤慎也(本校 PTA 副会長)

中野真幸(本校校長)

[欠席者]

なし

[盛岡となん支援学校 職員 出席者]

副校長: 小山芳克、青柳チカ 事務長: 平澤清峰 総括教務主任: 藤村利子 総務主任: 浅里恵

1 開会のことば(会長)

2 校長あいさつ

コミュニティースクール(学校運営協議会)をスタートして今年で 4 年目に入った。委員の皆さんも今年度は 10 名となった。継続の方は 4 名、新しい委員の方を迎え、新しい風を入れて、となん支援の応援団となっただけのこと、ありがたく思っている。様々なご助言をいただきたい。

3 委員紹介

- ・近況等含めた自己紹介

4 学校職員出席者自己紹介

5 会長・副会長選出

- ・会長は立候補者がなく、担当より推薦され選出された。副会長は立候補があり選出された。

6 協議 (司会進行:会長)

(校長より説明)

(1) 令和7年度学校経営計画

学校教育目標の「確かな学び」とするために、めざす児童生徒像として、学習指導要領にある3観点、知識・技能、思考・判断・表現、人間性等を中心にし、さらに知・徳・体・感性がどこにあたるか明確に示している。カリキュラムマネジメント等とおして推進していく。

・学校経営計画と学校概要は、承認された。

(2) これまでの取り組み(3年間の成果)とこれからについて

(総括教務主任より説明)

ア これまでの取り組みを資料(パワーポイントが不調のため急遽紙ベースでの資料となった)を使って説明。

・A 虹の架け橋 B フレームランナーの学習環境を整える C 畑をつくる D 地域交流の4つの活動に取り組んだ。

イ 特色ある取り組みとして継続していく上でネーミングを児童生徒からの公募。

・子供たちからのネーミング募集のワードにワクワク、キラキラ、笑顔、チャレンジなどのワードが出てきた。児童生徒たちにとって取り組んだ活動のイメージが伝わってきた。今後も継続して取り組んでいきたい。

(意見)

・ネーミングを子どもたちから集めたのはとてもいい発案。継続してどんどん取り組んでいったほうがいい。

ウ 地域への発信方法について

・昨年までは校報を本校のホームページに載せるほかに、藤沢地区に全戸配布、東小学校の保護者さんにメッセージの送信でご覧にいただけるようにした。

(意見)

・校報を藤沢地区と矢巾 2 区に回覧の形にすれば、東小の学区の地区にまで回せるかもしれない。せめて東小の学区の広さぐらいまでは、となん支援学校の地元としていいのではないかな。東小のメールを使って校報を載せることでカラーのものは見られる形がとれる。

・校報をメールで送ることで東小の親子のところで見てもらえる。回覧板を使っただけの回覧で幅広い年代の方々にも見ていただくことができる。様々な方法をお願いしてこの地域の方々に知っていただくことができるようにしたい。

・自然な交流ということで矢巾 2 区の子供たちの和太鼓を発表してもらうのはどうか。

東小のマーチングの発表を見てもらうなどはどうか。

(3) 今年度の取り組みについて

(総括教務主任より説明)

・今年度は、ネーミングを付けた取り組みは継続していく。

・困っていること、学校への希望、今のインクルーシブ社会の形成のためにやってほしいことなどを付箋に記入してもらった。

(意見)

・木製プランターの植物の成長日記などを画像などで発信してみたらどうか。

・花いっぱい運動 PTA 活動に地域の方々と協力できる方にも参加してもらうのは。学校と地域が何か一緒

に何か活動する、そこに作業があると盛り上がると思う。

- ・大型ショッピングセンターができて、矢巾町以外の方、県外の方などもここに買い物に来ているかもしれない。そういうところを利用して何か発信できないものか。

- ・交通安全の視点から、信号機を付けてほしいなど不便は感じてないだろうか。

急激に交通量が増えて、危ない場面も見ている。ここを使う児童生徒さんのため、職員のため、地域の方々のためにも信号機が必要。

今現在、押しボタン式信号を普通の信号機に検討しているとの話あり(決定ではないが)紫波警察署の方より。

- ・互いの学校を知るために、掲示板を作ってお互いの発信を相互に見合う。それから、行事交流、直接交流が難しければオンラインとか録画したものをお互いに見合うなどできるようにしては。インクルーシブ教育として、支援学校との交流は、東小の子たちが自分の生き方について考えたり、社会性を育てたりすることにもなる。その他に、一緒に支援学校と東小で植えた花を医大通りのところに並べて友情の花とか思いやりの花という形で並べられたらいい活動になるのでは。

- ・矢巾町の地域のことや名所などを盛り込んだカルタやすごろくを交流の一つにやってみるのはどうだろうか。

- ・コロナ禍になってから飲食を伴うような学校行事やPTA活動はなくなってしまった。飲食ができるような行事は子供たちも楽しめると思うのでまたやってほしい。

- ・ボッチャは、健常者も身障者も一緒に楽しめるスポーツで、年齢も関係なく楽しめるかと思う。大きな大会もあるのでそのような体験ができるのもいいかと思う。

- ・学校を知ってもらうということがキーポイント。地域の皆さんに知ってもらうためにも様々な行事が考えられるが、この学校の駐車場が少ないという問題がある。

また、ここが安全な場所だと思ってかカルガモが現在卵を産んで温めている。状況を見守っているところである。

(4) その他

具体的なご意見をいただいたので、学校の方でも検討していきたい。話し合いの全体を振り返ってみると、すぐに取り組みそうなものもあったように思う。

書いてもらった付箋の表だが、このような解決があるなど暮らしているうちに、ピンとつながったりするかと思う。後でお礼状の中に表の写真を入れて第2回の時に共有させていただきたい。

8 その他

- ・事務連絡

8 閉会のことば(副会長)